松戸市

ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ混合（DPT−IPV）予防接種のお知らせ

1　ジフテリア（D）

ジフテリアは1981年にDPTワクチンが導入され、現在では国内の患者発生数は年間０名が続いています。

＜感　　染＞　ジフテリア菌の感染で起こります。ジフテリアは感染しても10％程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。

＜症　　状＞　高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病２～３週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがありますので、注意が必要です。

2　百日せき(P)

１９５０年から百日せきワクチンの接種が始まって以来、患者数は減少してきていますが、最近、長引くせきを特徴とする学童期、思春期、成人の百日せき例が増加傾向にあり、乳幼児への感染源となる危険性がありますので注意しましょう。

＜感　　染＞　百日せき菌の飛沫感染で起こります。

＜症　　状＞　普通のかぜのような症状で始まり、続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続性にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）、けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こします。乳児では命を落とすこともあります。

3　破傷風（T）

土の中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

＜感　　染＞　ヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。

＜症　　状＞　体の中で菌が増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は自分や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。

4　不活化ポリオ（IPV）

「小児マヒ」と呼ばれ、現在でもパキスタンやアフガニスタンにポリオの流行があり、ナイジェリアでも発生がみられていますので、これらの地域で日本人がポリオに感染したり、日本にポリオウイルスが入ってくる可能性があります。

＜感　染＞　ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排出され、この便を介してさらに他の人に感染します。乳幼児がかかることが多い病気です。

＜症　状＞　ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあらわれずに、知らない間に免疫ができます。しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ(感染者の中で約１，０００～２，０００人に１人）、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。

5　副反応

主な副反応は、注射部位では発赤・硬結（しこり）・腫れなどで7日目までに約18%見られます。なお、硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。通常高熱は出ませんが、接種当日に３７．５℃以上の発熱は０．５～１．８％あります（平成２５年度予防接種後健康状況調査集計報告書）。また、極めて稀にショック，アナフィラキシー様症状や血小板減少性紫斑病，脳症，けいれんなどの重大な副反応の発生も否定はできません。

1　持参するもの

４種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・不活化ポリオ）予防接種予診票（松戸市交付）　予防接種番号　母子健康手帳

健康保険証など住所が確認できるもの　子ども医療費助成受給券

★「予診票（無料券）」に必要事項を記入する際には、ボールペンを使用してください。

2　受ける年齢

・生後2か月～7歳6か月未満（7歳6か月になると無料での接種はできません）

※標準的には生後2か月～12か月未満で開始する

3　接種回数と接種間隔

※生後2か月になったら、なるべく早期に接種を開始しましょう。

※確実な免疫をつくるために、できるだけ標準的な接種間隔で接種しましょう。

4　接種方法

・松戸市と契約している医療機関で受ける個別接種です。（別紙医療機関一覧表参照）

・契約している医療機関以外では、「予診票（無料券）」は使用できません。

・転出等で松戸市に住民登録がない場合は、松戸市発行の「予診票（無料券）」は使用できません。

5　受けることができない人

（1）明らかに発熱（通常37．5℃以上をいいます）のある人

（2）重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人（急性で重症な病気で、薬を飲む必要のあるお子様は、その後の病気の変化もわからないことから、その日は接種を受けないのが原則です。）

（3）その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことのある人

アナフィラキシーというのは通常約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるようなはげしい全身反応のことです。

（4）その他、医師が不適当な状態と判断した場合

6　受ける前に医師とよく相談しなくてはならない人

★下記に該当する人は、かかりつけの医師と相談し、必要に応じて**「診断書または意見書」**をもらってから接種に行きましょう。

（1）心臓病・腎臓病・肝臓病・血液の病気や発育障害などで治療を受けている人

（2）前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人

（3）今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人

（4）過去に中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、又は、近親者に先天性免疫不全症の者がいる人

（5）ワクチン内の成分に対し、アレルギーがあるといわれたことのある人

（6）薬の投与を受けて皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことのある人

（7）麻しん（はしか）は治ってから4週間、風しん、おたふくかぜ、水ぼうそうなどは治ってから2～4週間経過していない人、いずれの場合も一般状態を主治医が判断し、決定します

7　接種上の注意

（1）予防接種を受けたあと30分間は、医療機関でお子様の様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。

（2）接種後、生ワクチンは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。

（3）接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。

（4）当日は、激しい運動は避けましょう。

8　予防接種による健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

◎何か気になる症状が出た場合は、医師の診察を受けてください。

松戸市　健康医療部　予防衛生課　　電話 047-366-7483